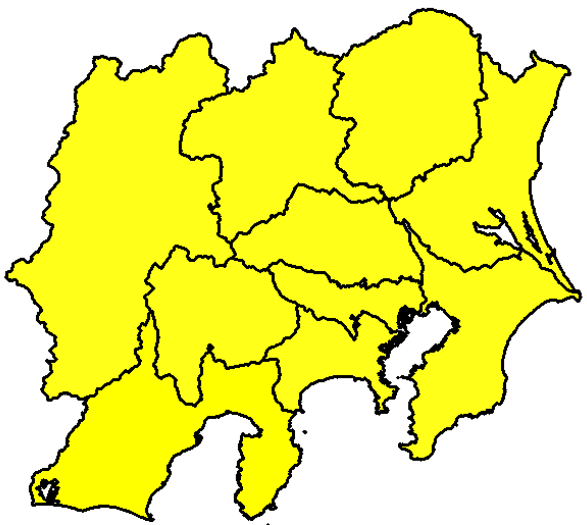
関東の水稲をめぐる状況について



令和7年1月

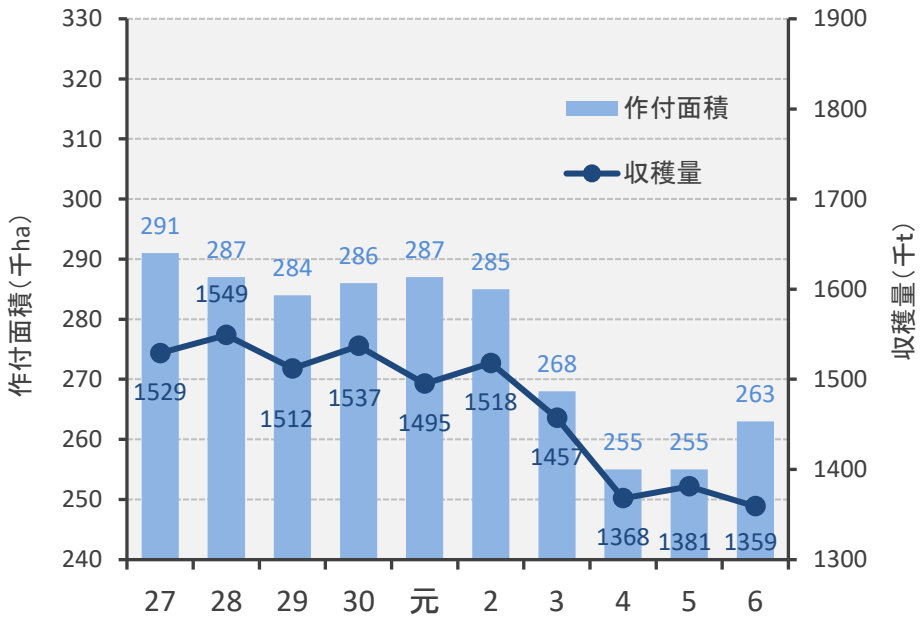
関東農政局生産部生産振興課

1　作付面積及び収穫量の推移

○　管内における水稲の作付面積及び収穫量については、平成27年から令和2年まではほぼ横ばいで推移。
令和3年からは新型コロナウイルス感染症の影響等による消費減退も加わったが、令和6(2024)年産は増加した。
作付面積は約26万3千ha(平成27年産比9.6%減)、収穫量は約136万t(同11.1%減)となっている。

○　令和6(2024)年産の作付面積を都県別にみると、茨城県が約6.3万haと最も多く、次いで栃木県、千葉県となっており、
収穫量についても同様に茨城県(約33.9万t)、千葉県、栃木県の順となっている。

○管内水稲(子実用)の作付面積及び収穫量の推移



資料：農林水産省　作物統計「令和6年産水陸稲の収穫量（管内）」
注）子実用とは、青刈り面積(飼料用米等を含む。)を除いた
面積及び収穫量である。

○令和6年産水稲の生産状況

都県名	作付面積	管内作付面積割合	10a当たり収量	収穫量	作況指数	前年産増減 作付面積	前年産増減 収穫量
	(ha)	(%)	(kg)	(t)		(ha)	(t)
茨　城	62,500	23.8	542	338,800	103	2,800	22,400
栃　木	53,000	20.2	540	286,200	101	1,600	2,000
群　馬	14,300	5.4	499	71,400	100	400	1,300
埼　玉	29,600	11.3	476	140,900	97	1,200	3,400
千　葉	50,600	19.3	569	287,900	105	2,900	22,200
東　京	107	0.0	414	443	100	△ 4	△ 22
神奈川	2,840	1.1	481	13,700	97	△ 10	△ 500
山　梨	4,680	1.8	534	25,000	100	△ 70	△ 700
長　野	30,300	11.5	620	187,900	101	△ 300	0
静　岡	14,500	5.5	484	70,200	95	△ 600	△ 8,200
管　内	262,500	100	542	1,422,000	101	7,900	41,000
全国に占める管内の割合	19.3%	―	―	19.4%	―	―	―
全　国	1,359,000	―	540	7,345,000	101	15,000	180,000

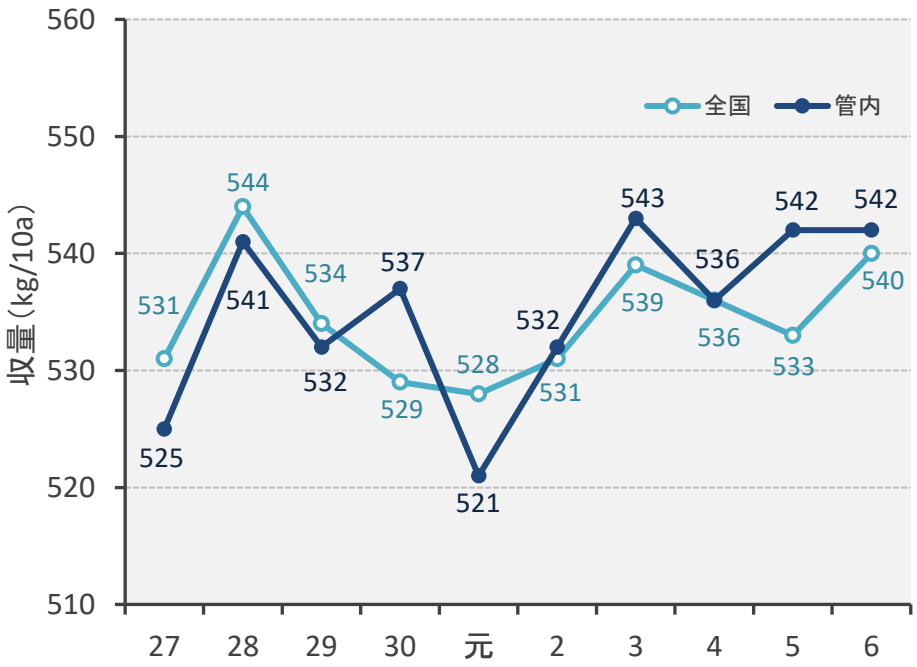
資料：農林水産省　作物統計「令和6年産水陸稲の収穫量（管内）」
注1）作付面積(子実用)とは、青刈り面積(飼料用米等を含む)を除いた面積である。
2）作況指数とは、10a当たり平年収量に対する本年の10a当たり収量の比率である。
3）ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

2　単収の推移

○　管内の水稲10a当たりの平均収量(単収)は、気象条件により変動しているものの、おおむね540kg/10a前後で推移。

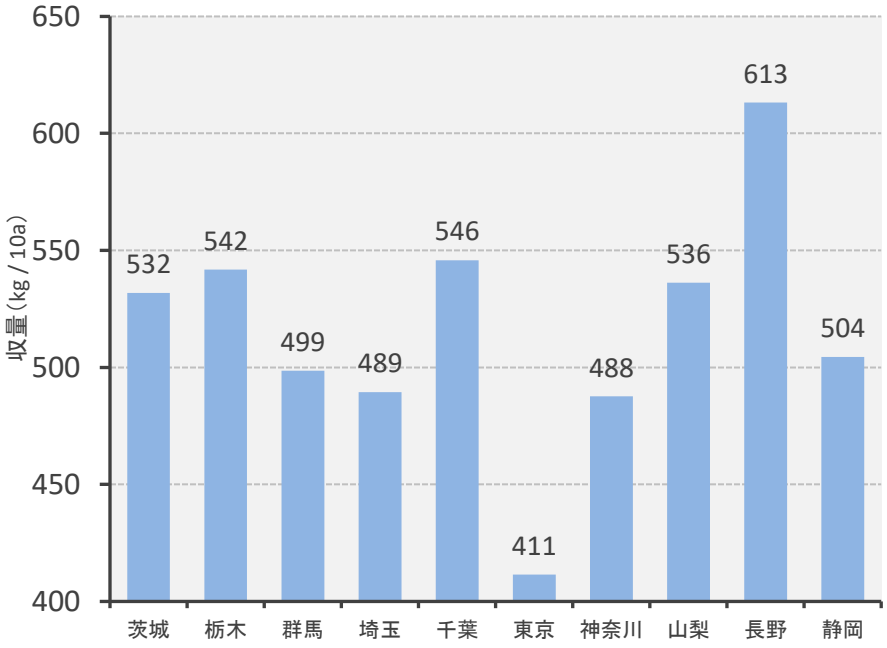
○　都県別に直近7ヶ年の単収の最高・最低を除いた5年平均値でみると、長野県が613kg/10aと突出して多い。
これは、気温日較差が大きく、日照時間が長いため、登熟に適した気候条件が整っていることが考えられる。

○水稲の10アール当たり収量の推移



資料：農林水産省作物統計「令和6年産水陸等の収穫量（管内）」

○水稲の10アール当たり平均収量5カ年平均



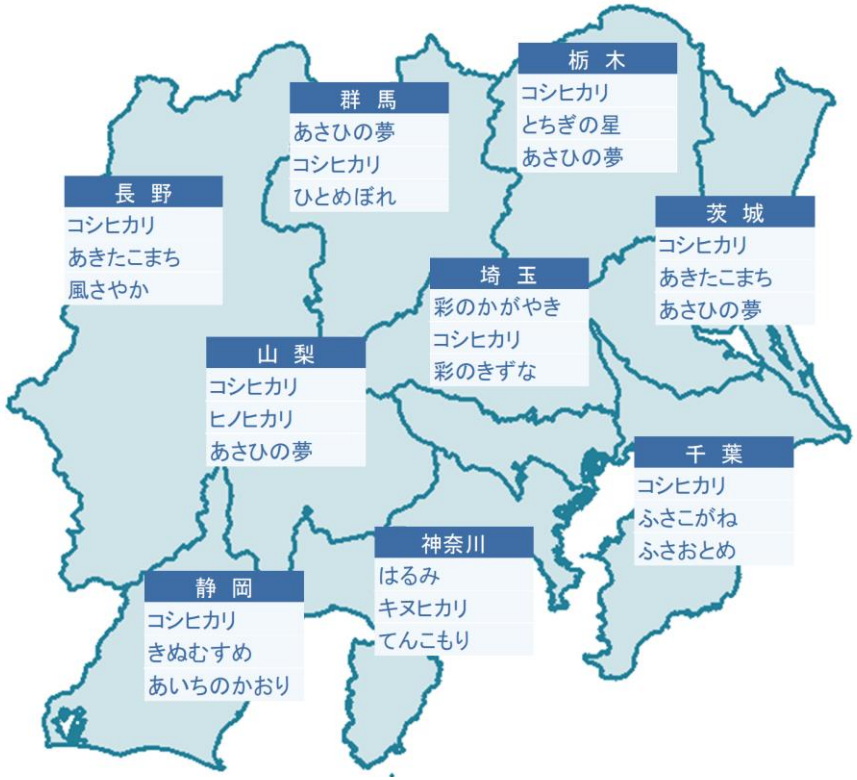
資料：農林水産省　作物統計
注）平成30年産～令和6年産の10a当たり収量のうち、
最高値と最低値を除く5カ年の平均値。

3　各都県で作付けされている水稲の主要品種

○　管内で最も多く作付されている品種は、「コシヒカリ」で、作付面積の約6割を占めている。

○　近年では、「とちぎの星（栃木県）」、「彩のきずな（埼玉県）」、「ふさこがね（千葉県）」、「風さやか（長野県）」のように、各県独自品種の作付けが増えている。

○各県で作付けされている水稲の主要品種（令和5年産）



資料：公益財団法人米穀安定供給確保支援機構　水稲の品種別作付動向について

○管内のうるち米（醸造用、もち米を除く）の作付上位品種

（単位：%）

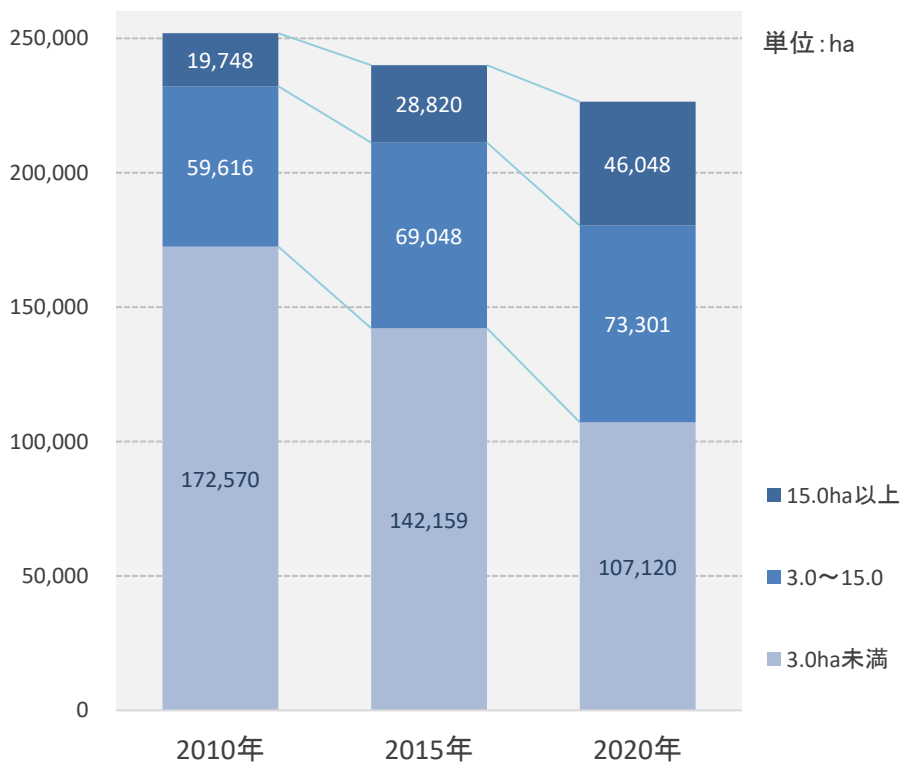
品種名	R元年産	R2年産	R3年産	R4年産	R5年産
コシヒカリ	61.1	60.7	59.5	58.5	57.9
あさひの夢	7.5	6.7	6	6.2	5.6
ふさこがね	4.5	4.6	4.6	4.9	5.0
あきたこまち	4.3	4.1	4.2	4.0	4.0
とちぎの星	2.2	2.1	3.2	3.0	3.6
彩のかがやき	3.5	3.5	3.3	3.4	3.4
彩のきずな	1.8	2.2	2.5	2.6	2.7
ふさおとめ	2.6	2.5	2.3	2.0	1.8
きぬむすめ	0.9	0.9	1	1.1	1.1
はるみ	0.5	0.6	0.7	0.8	0.8
ひとめぼれ	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
風さやか	0.5	0.6	0.7	0.7	0.7
あいちのかおり	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6

資料：公益財団法人米穀安定供給確保支援機構　水稲の品種別作付動向について
注　1）品種別の作付面積に占める割合は、道府県への聞き取り等により推計した。
　　2）ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

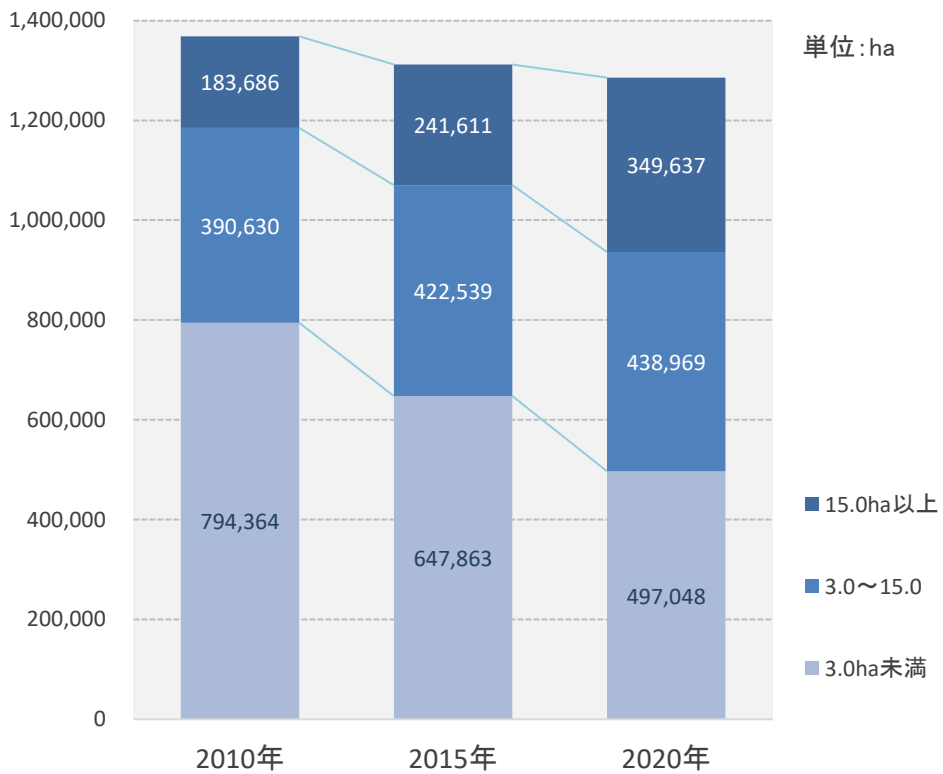
4　水稲の経営規模別作付面積の推移

管内の水稲の経営規模別作付面積は、3ha未満の層では徐々に減少しているものの、5ha以上の層では増加し、特に15ha以上の層では10年間で約2.3倍増加した。

○管内　水稲の経営規模別作付面積の推移



○全国　水稲の経営規模別作付面積の推移



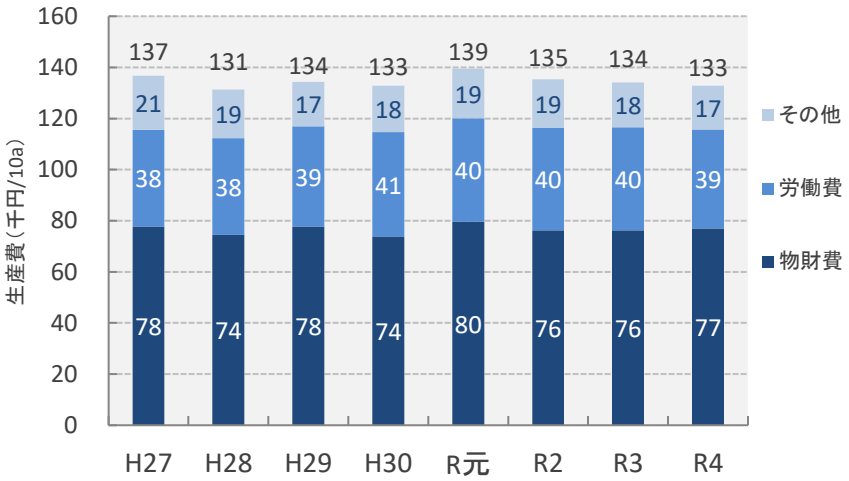
資料：農林業センサス

5 米の生産費と投下労働時間の推移

○ 管内における10a当たりの全算入生産費は、年により若干の変動はあるものの、
平成27(2015)年産以降ほぼ横ばいで推移しており、令和4年産では133千円/10aとなっている。
また、生産費の大半を占める物材費の中では「農機具費」と「賃借料及び料金」の割合が大きい。

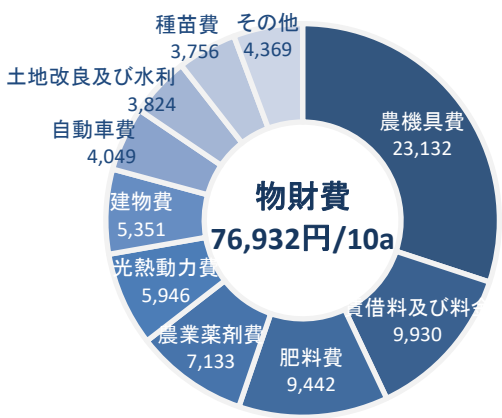
○ 10a当たりの投下労働時間についても、平成27年産までは管理作業や乾燥作業時間の短縮により減少傾向にあったが、近年はほぼ横ばいで、令和4年産は23.8時間となっている。

○10a当たり全算入生産費の推移

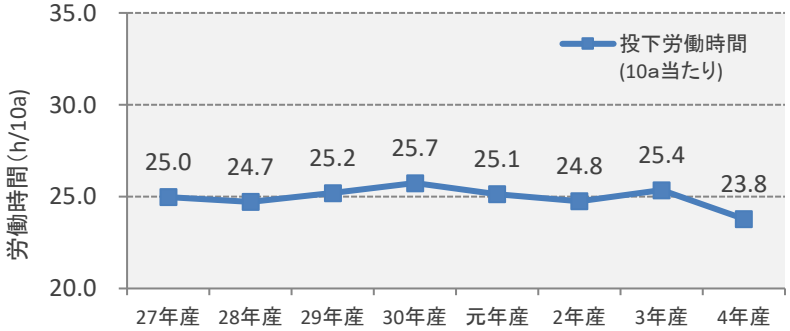


資料：関東農林水産統計「米生産費（個別経営）」

○物財費の内訳（令和4年産）



○10a当たりの投下労働時間の推移



6　需要に応じた米生産

我が国の米の消費量は毎年10万t程度減少が見込まれる中で、需要に応じた米の生産は不可欠。
また、平成30(2018)年産から行政による生産数量目標の配分がなくなり、生産者自らの経営判断と販売戦略に基づき需要に応じた生産・販売が行われる新たな米政策に切り替わった。
今後は農業者(産地)自らが、これまで以上に市場の動向や販売実績などを踏まえ、戦略的な米生産や他作物への転換に取り組むことが重要であり、堅調な国産の需要がある麦・大豆、今後需要の増加が見込まれる輸出用米、高収益作物である野菜等への作付転換を進めていく必要がある。

○主食用米・加工用米・新規需要米の作付面積

（単位：ha）

		H30年産	R元年産	R2年産	R3年産	R4年産	R5年産
主食用米		275,000	273,900	271,200	255,200	242,200	242,621
加工用米		7,569	7,579	7,003	6,445	6,620	6,565
新規需要米	飼料用米	25,883	23,716	23,544	38,128	47,878	45,849
	WCS	4,267	4,160	4,072	4,517	5,042	5,506
	米粉用米	1,665	1,880	2,199	2,539	2,919	2,606
	その他	376	579	908	758	735	1,172

資料：農林水産省　「作物統計」「水田における都道府県別の作付状況」
注1）主食用米は、作物統計・都道府県別の主食用米面積。
注2）加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積。
注3）新規需要米の「その他」は、新市場開拓用米、青刈り稲等の合計。

○関東管内水稲用途別作付面積の推移（上位5県）

（単位：ha）

用　途	県　名	H30年産	R5年産	管内割合
主食用米	茨城県	66,800	57,800	24%
	栃木県	54,700	47,200	19%
	千葉県	53,900	45,800	19%
	長野県	31,300	29,300	12%
	埼玉県	30,800	27,500	11%
	管内計	275,000	242,621	（増減）△32,379

用　途	県　名	H30年産	R5年産	管内割合
飼料用米	栃木県	9,155	15,069	33%
	茨城県	8,003	13,886	30%
	千葉県	4,379	10,154	22%
	埼玉県	1,669	3,605	8%
	群馬県	1,243	1,661	4%
	管内計	25,883	45,849	（増減）19,966

用　途	県　名	H30年産	R5年産	管内割合
WCS	栃木県	1,626	2,177	40%
	千葉県	984	1,316	24%
	茨城県	550	653	12%
	群馬県	519	621	11%
	静岡県	217	330	6%
	管内計	4,267	5,506	（増減）1,239

用　途	県　名	H30年産	R5年産	管内割合
米粉用米	栃木県	604	1,418	54%
	埼玉県	618	769	30%
	群馬県	324	168	6%
	千葉県	44	135	5%
	茨城県	39	55	2%
	管内計	1,665	2,606	（増減）941

7　米の輸出

○　管内においては平成30年から令和2年にかけて新市場開拓用米の作付面積及び生産量が2倍以上増加していた。令和5年産では作付面積が1,165ha（平成30年産比3.11倍）、生産量が6,407t（同3.08倍）となっている。

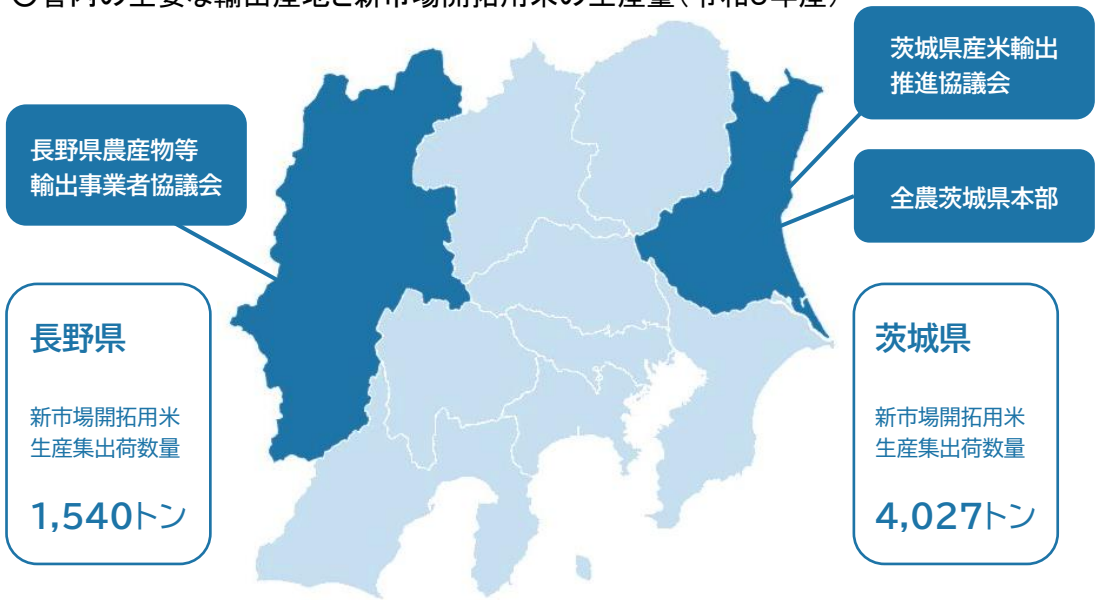
○　令和2年11月30日に取りまとめられた「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」において、輸出重点品目の一つとしてコメ・パックご飯・米粉及び米粉製品が選定された。令和2年度末までに品目ごとに輸出向けの生産を行う輸出産地のリスト化が進められ、管内では3団体がリスト化（茨城県産米輸出推進協議会、全国農業協同組合連合会茨城県本部、長野県農産物等輸出事業者協議会）され、輸出促進法に基づく輸出事業計画を策定している。

○関東管内新市場開拓用米の作付面積の推移（上位5県）

（単位：ha）

用　途	県　名	H30年産	R5年産	管内割合
新市場開拓用米	茨城県	224	762	65%
	長野県	61	245	21%
	栃木県	54	70	6%
	埼玉県	12	52	4%
	千葉県	19	35	3%
	管内計	375	1，165	（増減）790

○管内の主要な輸出産地と新市場開拓用米の生産量（令和5年産）



資料：農林水産省
「新規需要米の都道府県別の取組計画認定状況」の取組計画の認定面積、「新規需要米生産集出荷数量」の生産集出荷実績より作成。
新市場開拓用米には輸出用米等の他、醸造用の出荷数量も含む。

8 「飼料用米多収日本一」コンテスト

○ 平成28年度から実施されている「飼料用米多収日本一」コンテストにおいて、令和5年度は同コンテストの「地域の平均単収からの増収の部」において、関東農政局管内の生産者1名が全国農業協同組合連合会会長賞を受賞した。

○ 関東農政局では、本コンテストの応募者のうち、関東農政局の審査委員会により審査を行い、地域の模範となる収量水準を実現した者を対象に関東農政局長賞を授与している。（令和5年度は受賞者なし）

飼料用米多収日本一　令和5年度受賞者一覧

全国表彰　地域の平均単収からの増収の部

評価基準

褒章名	受賞者	所在地	品種	作付面積	単収（kg/10a）	地域平均単収との差（kg/10a）
全国農業協同組合連合会会長賞	櫻井 博	茨城県つくば市	夢あおば	18.5ha	730	203

【参考】令和4年度　関東農政局における表彰

評価基準

褒章名	受賞者	所在地	品種	作付面積	単収（kg/10a）	地域平均単収との差（kg/10a）
関東農政局長賞	越川 光重	千葉県匝瑳市	アキヒカリ	5.0ha	722	143
関東農政局長賞	横山 保作	静岡県御殿場市	どんとこい	2.3ha	655	171